

三遠南信の交流促進

渡会県議来社、新年の抱負語る

公明党の渡会克明県議が3日午前、東愛知新聞社を年賀に訪れ、昨年を振り返りながら新年の抱負を語った。「名古屋や西三河地区を意識すると



「地域の人的交流の促進が大切だ」と新年の抱負を語る渡会県議。東愛知新聞社でインタビュー。

国道23号バイパスをはじめとする東西軸の整備で（県の東西間の）風通しを良くし、同時に三遠南信地域内の交流を促進していくことが大切だ」と地元問題に取り組む決意を示した。

渡会氏は予想される衆院選について「参院選の反省も踏まえ、生活者の視線に立って政策を打ち出し、自・民の間の橋渡しをし、公明らしさを出して議席増を図ることが目標になる」と。地元問題では「救急医療、過疎問題を考えても三遠南信、東三河地域内の交流事業が大切。地域内の南北軸についてのとらえ直しに取り組むたい」。また「教育面では人材の確保策が欠かせない。そのための流れをつくる。新年はそれに取り組む年となる」と決意を示した。今年秋に行われる豊橋市長選については「このままでは（豊橋は）埋没してしまふ。市民に分かりやすい対立軸が出るのが重要だろう」と期待を示した。（本多亮）